

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 1月 9日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学系研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	スイス連邦工科大学チューリッヒ
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input checked="" type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:建築設計) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他()			

派遣先大学の概要

世界有数の工科大学。
ローザンヌに姉妹校であるスイス連邦工科大学ローザンヌ校(EPFL)がある。
建築学科、土木工学科、機械工学科、化学科、林学科に加えて、多目的学科(数学・自然科学・文学・社会学・政治学を包括)がある。
(Wikipediaより)

留学した動機

海外での設計教育を経験することで、日本人の設計者としてとるべき姿勢が明瞭になるのではないかと感じたため。
最終的な建築の質を左右するプラクティカルな側面まで学習・設計する機会が日本には不足しているように思われたため。
英語を用いた生活や海外での建築教育の経験が今後仕事をする上で役立つと考えたため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015 年	修士2	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015 年	8 月~		2015 年	12 月
	修士2	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016 年	修士2	年生の	夏	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016 年	修士2	年生の	1 月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		22	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		0 単位		
	留学後の取得(予定)単位		単位		
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014 年	4 月入学		2017 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3 年		0 ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

修士で1年-1年半勉強してある程度留学先での目標を見定めてから留学したいと考えたため。
卒業論文・卒業設計の終了後から手続きを開始したため。
修士論文・就職活動合わせて1年間費やしたいと考えたため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きのうち重要だと思うものは以下の通りです。

TOEFL受験(留学1年前の8月頃。早めに受験するといと思います)

奨学金の応募 (4月ごろ海外留学支援制度(協定派遣)へ応募。官民協働海外留学支援制度～ビタテ！JAPAN日本代表プログラム～にも応募できるようです)

寮への応募 (6月ごろ。早めに応募すれば希望する寮へ入居できる確率が高まると聞きました。)

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

不要でした。交換留学受け入れ許可証で入国できました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

インフルエンザおよびA型肝炎の予防接種を受けました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学の交換留学で必須である付帯海学および、スイスで必須である保険のうちswisscareへ加入しました。スイスでの保険加入は申請によっては免除可能です。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFL受験(B2レベル)
研究室で留学生と英語で会話。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本の食材(味噌汁など)。現地では高額でした。
留学先で勉強したいことをできるだけイメージしたりリサーチしたりしておく、特に留学期間が短い人の場合は良いと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位認定の申請	授業科目名	単位認定の申請
Urban Mutations on the Edge: Concrete, Part 1		Seminar Week	
Travellers. On the Ways of Seeing Urban Territories (Lectures and Dialogues)			

Architektur VII		
Entwurf V-IX: Moderne Städte – Réinventer Paris (E.Christ / Ch. Gantenbein)		
Urban Design I		
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)		
<p>設計課題(Entwurf V-IX)が学業の中心であり、火・水曜日に自分の作品に対してアドバイスを受ける時間が設けられるため、火・水曜日にアドバイスを受けられるようそれまでに準備を行うというのが大きな流れでした。</p> <p>私が履修したE.Christ / Ch. Gantenbeinのスタジオはパリ郊外に集合住宅を設計するにあたり世界各地の現代都市を構成する所謂アノニマスな建築のタイポロジーを参照することで都市のコンテクストを尊重した建築を考えるというものであり、非常に興味深い課題設定であったと同時に、模型の制作方法にも建築を考えるうえでの日本との差異が見られて大変勉強になったように思います。</p>		
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など		
<p>6科目・20単位</p> <p>基本的に設計課題の作業を行っていました。</p>		
④学習・研究面でのアドバイス		
<p>留学先での指導の方針を、言葉のうえでは理解したつもりでも、実際に理解するのが大変だったように思います。</p> <p>理解するためには、時間はかかりましたが、自分なりの理解で一度しっかり試してから先生に見せてアドバイスをもらい、理解の仕方を修正してゆくのが良いと思いました。</p>		
⑤語学面での苦勞・アドバイス等		
<p>英会話に関しては、留学までに研究室で留学生と英語で会話するのが一番効果的であったように思います。</p> <p>チューリッヒはドイツ語圏に属していますが、私の履修した授業は英語で開講されており学生も英語を話すことができるので、ドイツ語ができないと生活できないということはありませんでした。</p>		
生活について		
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)		
<p>寮。</p> <p>留学先から応募申し込みの連絡があるのでそれに従って応募しました。</p>		
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)		
<p>8-12月に滞在しましたが私の滞在した年は比較的暖かく、寒いときでも0℃前後だったように思います。雪もあまり降りませんでした。</p> <p>建築学科のキャンパスはチューリッヒ中心部から少し離れた丘の上にあり、周囲にお店などはありませんでした。</p> <p>チューリッヒはバス交通が発達しており、寮から学校までバスで20分程度でした。</p> <p>物価が高いためドイツで食材を購入し自炊しました。</p> <p>クレジットカードを主に利用しました。</p>		
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)		
<p>治安は良好でした。</p> <p>医療機関は利用しませんでした。保険に加入しないと医療費が非常に高額であると聞きました。</p>		
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)		
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>		

<p>家賃(7万円/月) 食費(2.5万円/月) 交通費(1万円/月) 保険(1万円/月) 通信(0.5万円/月)</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>上記の他に、 航空券(15万円) 住民登録(2万円) 修学旅行代金、旅行代、携帯電話端末代、書籍代など。</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>
<p>海外留学支援制度(協定派遣)。地域によりますがチューリッヒは8万円/月。 全学交換留学の選考を通過したのち応募しました。</p>
<p>⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)</p>
<p>基本的に設計課題の作業を行っていましたが、時間のある週末はスイス国内を旅行しました。</p>
<p>派遣先大学の環境について</p>
<p>①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)</p>
<p>私は受講しませんが学期開始前の2週間でドイツ語の集中講義を受講できます。受講する場合、人気の講義であるため申し込みを早急に行う必要があります。 交換留学生のための窓口があり、日常生活の質問などに対しても丁寧に対応していただきました。 学習環境は設備・指導体制ともに非常に恵まれていると思います。</p>
<p>②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)</p>
<p>建築図書館は8:00-21:00で開館しており蔵書も豊富だと思いました。 共同のA3プリンタやプロッター、レーザーカッターなどがあり設備面も恵まれていると思います。私は利用しませんが建築設計で利用するソフトウェアの搭載された高スペックの共同PCも用意されています。 食堂は1食1000円弱かかるためほとんど利用しませんでした。 スポーツ施設も利用しませんが用意されているようです。</p>
<p>留学と就職活動について</p>
<p>①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど</p>
<p>②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響</p>
<p>日本ではワークショップ等を通じて建築を設計する前段階のシナリオを考える機会も多かったのですが、スイスで建築設計の課題を履修することを通じて、卒業後は建築を実際に設計する立場にありたいと改めて思いました。</p>
<p>③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)</p>

留学中は実際には就職活動は行いませんでしたが、留学前に情報収集をしたりポートフォリオのたたきを作成しはじめたりしました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:)
()4.非営利団体(団体名又は分野:) (○)5.民間企業(企業名又は業界: 建築(設計))
()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

修士2年後期での留学でしたが、結果的には建築の設計を通じて自分の建築に対する興味を整理・学習する機会となったと同時に、修了までの1年間に勉強すべきことが新たに多く出てきたように思いました。また長く通っていた学校や実家を離れてすべて始めから生活をスタートさせるということが、今後の日本での生活の仕方を考え直すきっかけとなったように思います。

②留学後の予定

就職活動、研究室活動、修士論文

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

4か月間の留学は比較的短期間ですが、4か月間で学べることは多く、また長く海外にいればいいというわけでもないような気がします。手続きなどの締め切りが早く、留学先に行かないとわからないことも多くあるので実際には難しいのですが、自分が留学や留学後で何を勉強したいのか考えながら、留学をするかどうか・するとしたらどこにどれくらいの期間か等を決めるといいのではないのでしょうか。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

留学体験記(工学部)
<http://oice.t.u-tokyo.ac.jp/exchange/report.html>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。